

晩年を過ごしたとされる終焉説のある地。
萬福寺や医光寺に雪舟が築いた庭園がある。



島根県 益田市
Masuda City

【ご挨拶～サミットに寄せて～】

第19回雪舟サミットが山口市で開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

また、「雪舟回廊（国土交通省ガーデンツーリズム登録）」の策定にあたりまして、構成自治体の皆様にご協力いただきましたことに改めて感謝申し上げるとともに、総社市で開催されました第18回サミットにおいて、今後の方向性への認識を共有させていただいたこと、大変心強く感じております。

雪舟を通じ、各関係市町の交流がより一層深まり、連携の輪がさらに広がることを願っております。



益田市長 山本 浩章

【市の紹介】

益田市は、島根県西端に位置する人口約4万5千人のまちです。北部は日本海に面し、南部は中国山地の山々が連なり、水質で大変高い評価を受けた高津川が日本海に注いでいます。

昨年6月には、「中世日本の傑作 益田を味わう—地方の時代に輝き再び—」が文化庁の日本遺産に認定されました。当市が有する、雪舟作庭と伝わる萬福寺・医光寺庭園は、日本遺産の構成文化財であるとともにガーデンツーリズム「雪舟回廊」の構成庭園でもあります。

また、雪舟筆の重要文化財「紙本著色益田兼堯像」を所蔵する益田市立雪舟の郷記念館では、本年10月13日～12月6日の間、特別展「雪舟ゆかりの戦国武将—益田氏・大内氏・毛利氏—」を開催し、雪舟ゆかりの武将の肖像画を紹介することとしております。

雪舟が生きた中世という時代を五感で味わうことができる益田市。多くの皆さまのお越しをお待ちしています。

【雪舟とのつながり】

重要文化財「益田兼堯像」（益田市立雪舟の郷記念館所蔵）

雪舟が活躍した時代に益田を治めていたのは領主・益田氏で、室町時代の当主・益田兼堯は雪舟を益田に招いて萬福寺、崇観寺（現在の医光寺）で庭園を築かせ、また自身の肖像画を描かせました。雪舟の人物画は珍しく、雪舟と兼堯の親密な関係がうかがわれます。

益田元祥奉公覚書案

（部分。東京大学史料編纂所所蔵「益田家文書」）

安土桃山時代から江戸時代初頭の益田氏当主・益田元祥は関ヶ原の合戦後、毛利氏にしたがって周防・長門（現在の山口県）に移り、財政問題解決に活躍し、益田家は長州藩の永代家老となります。元祥の活躍を孫の益田元堯が書き上げた古文書によると、元祥は雪舟筆の三幅対を二つも毛利家に献上しており、さらに雪舟が最晩年に益田に来て亡くなったと記されています。これは雪舟がどこで亡くなったかを記した最も古い記録です。